



広報

なほ市民の友

第626号 毎月1回発行
2003年(平成15年)

3月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

市の人口と世帯	
* ()内はうち外国人	
2003(平成15)年1月末現在	
総人口	308,348(1,837)
男	149,076(933)
女	159,272(904)
世帯数	120,247(1,057)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	87,001
真和志	105,871
首 里	58,633
小 禄	55,006



満開のさくらに心ウキウキ

咲き誇る薄紅に
笑顔も開花

近隣公園として、多くの市民に親しまれている与儀公園は身近なお花見スポットである。

園内には今年も500本の寒緋桜(カンヒザクラ)が咲き誇り、まわりの緑と相まって、訪れる人の目を楽ませた。

日本のサクラ属は約200種あるといわれる。本土でよく見かけるソメイヨシノは温帯性の植物のため、沖縄の酷暑に耐えられないようだ。ソメイヨシノが開花するために5度以下の寒気が必要であるのに対して沖縄で見える事の多い寒緋桜は10度前後でも開花するという。

きれいに咲くためには土壌のよしあしも影響すると思われるが、与儀公園の場合、その前身が農業試験場であったことがプラスになっているのかも。

沖縄では気温の低い北部の山々で咲き始め、約1ヶ月後に那覇で開花。桜全線は南下する。

2月12日～16日まで「なはさくらまつり2003」(全沖縄花木生産組合主催)が同公園で行われ、花木の展示即売、園芸相談などで賑わった。

満開のさくらは人々の心をウキウキさせ、笑顔も開花。

咲き誇る薄紅に思わず指をさす女性。カメラ付き携帯で記念撮影をする若者たち。ポカポカ陽気にさわられたTシャツ姿。カメラに向かって、歩き始めたばかりの幼な子が一歩、二歩と進んできた。トコトコと後ろに「春」を連れて。

主な紙面

- (2面) かんぴんペットボトルの出し方
- (3面) 那覇市総合防災訓練
- (4面・5面) 平成15年度(2003年度) 施政方針(要旨)
- (6面) 市民課(本庁)の土・日窓口開設
- (7面) 情報PACK

支店の視点⑫

たしろみつ 田代光記

(株)沖縄CSK代表取締役社長

1953年生まれ。
福岡県北九州市出身。
1979年コンピューターサービス(現CSK)入社。
大分、倉敷、大阪にて勤務後1998年10月沖縄着任。
東京、大阪で受注した様々なシステム開発案件を沖縄にてリモート開発を行っています。

98年に着任してから早いもので5回目の正月を沖縄で迎えました。着任当時は暑く感じた冬も今ではまともに寒さを感じています。しかしながら沖縄那覇はともに住みやすい街です。温暖な気候に加え、特に観光地である沖縄は見所が多く休みの日を退屈させません。休日には散歩する事が多いのですが識名園から金城町の石畳道、首里城へ向かう道は今では定番コースです。以前、識名園の見学会に参加しましたが、案内の方のわかりやすい説明でより一層興味深いものになりました。この場所から天然の風景画が見られるのをご存知の方は少ないのではないのでしょうか？

さて県都としての「那覇」は産業、生活の中心としての役割があるわけですが那覇に住んでみて少しづつほころびが出てくるのではと感じることがあります。観光スポットはきれいに清掃されているのですが生活道路などは生活ごみが無造作に捨てられ、はたまた自動車まで放置されています。泊港

に注ぐ安里川はもはや沖縄のものとはいえません。朝の通勤ラッシュは自動車で渋滞続きです。那覇市の人口密度は約7,700人。名古屋市は約6,600人ですが道路網がきちんと整備されています。都市基盤を整備していかないと、観光都市那覇も行っては見たいが住みたくないうちの街になってしまいます。

CSKは地方展開の中で若い優秀な人材が豊富である沖縄に注目しました。その中でも人の集まる那覇です。将来を見つめても人口に占める14歳以下の割合は20%弱で全国一です。このパワーはこれからの沖縄の活力の源です。

那覇市では学校インターネットのシステムが全国に先駆けて立ち上がっています。これをお子供たちにどんどん開放し、子供たちの限りない好奇心をくすぐり、そのアイデアを街づくりに活かしていけば、この生活習慣病に犯されつつある那覇の街も住みよい街に戻っていくのではないかと思います。



春は趣味の「アマチュア無線」も開花(電波状態が好転)。全国の愛好家と通信する日が待ち遠しい

6面に市民課(本庁)の土・日窓口開設のお知らせがあります。